

# 令和元年度第4回

地域包括支援センター展勝地

## さくらネットミーティング 報 告

令和元年10月21日（月） 14：00～  
ケアハウスエスカール 会議室

# 参加者

- ① エスカール在宅介護支援センター
- ② 居宅介護支援事業所浮牛の里
- ③ 八天の里在宅介護支援センター
- ④ 介護相談センターふたご
- ⑤ 看護小規模多機能型居宅介護きずなの森
- ⑥ やちだもの家北上ケアプランセンター
- ⑦ グループホームさらき
- ⑧ グループホームくちない
- ⑨ 八天の里デイサービスセンター
- ⑩ エスカールデイサービスセンター
- ⑪ 博愛ヘルパーステーション
- ⑫ ケアハウスエスカール
- ⑬ ホームケアクリニックえん

※ ケアマネ11名（主任ケアマネ1名、管理者3名） 看護師 2名、  
介護福祉士 3名、相談員 2名、作業療法士 1名  
北上市医療介護連携支援センター 3名、市包括支援係 1名  
地域住民 13名、包括展勝地4名 **計 40名**

# 本日のメニュー

- ▶ 開会：さくらネットミーティング目的、趣旨説明
- ▶ 講演：「緊急時の対応について」
- ▶ 講師：北上市医療介護連携支援センター  
センター長 柴内 一夫 先生
  
- ▶ グループワーク：司会は主任ケアマネか管理者、経験のあるケアマネ
- ▶ テーマ「訪問して、見守りして不安だったこと」

## ▶ ①グループ

- ・介護経験より、一番つらいときヘルパーの助けが心強かった。  
孫の子守もあり、かなり大変だった。  
「自分の年になればわかる」
- ・民生委員として、家族にはなしても即答もらえないこともある。  
子供へ遠慮する方が多い。  
支援員さんとの連携が難しい。どのくらい訪問しているか。  
担当者会議に出ることもある。  
個人情報なので誰かれに話せない。  
きぼうノートの活用はいいと思う。

## ▶ ②グループ

- ・グループホームでは、入居者の転倒が不安。車いす生活になるのでは？自立している人が転ばないように見守っているが...
- ・詳しいことを話したがる人がいて、どこまで介入したらよいか→見守りをどうしたら良いか。会話をして家族の協力がある人は良いが、近所の話をして聞いて心配になることがある。入院した友人が心配だが、どこまで話を聴くのが良いものか。
- ・一人で訪問すると話してくれない。何人かで訪問したほうが良いか。・福祉協力員の仕事としてどこまで近所の人に話したら...
- ・入院後も自宅に帰るのは難しいと聞くが...深く聴きづらい。「入院したと聞いたけど どう？」
- ・産直の配達。老夫婦。奥さんデイ→行きたくない。旦那さん90歳→食事作っている。大変なようだ。
- ・デイに行きたくない男性。妻の負担。1日でも面倒見ない日が欲しい。
- ・旦那さん入院して、息子夜見に来ているようだが、認知症の奥さんが日中独居で心配。→お買い物も来なくなったりしている。10分くらいで、玄関先でのお話を聴くだけなので、様子がすべてわかるわけではない。同年代、認知入って、話したくない会いたくない。→包括→デイに行く、行かない。訪問介護に来てもらうことにした。旦那さん、田畑して料理も。
- ・その人に合ったサービスを考える。・心配事は包括に繋げたい。

### ▶ ③グループ

- ・ 緊急時、災害時の対応...避難勧告が出たのに、逃げない高齢者...普段から対策訓練必要。
- ・ とろみをつけた食事をしていても詰まらせる方がいる。家ではとろみをつけていない。咽ないと言われる。早食い。不安。
- ・ 生保、連絡取れない、訪問したら倒れていた。見守りの人がいない。救急車呼んだ。元気な人で誰も心配するような人でなかった。
- ・ どこに連絡したらよいかわからない人は不安。見えるところに書いておいてほしい。
- ・ 身内だとますます不安。焦る。・ 訪問は一人だと余計ドキドキ。
- ・ 一人暮らしの方、訪問時声をかけても応答ないと不安。家の中に踏み込んでよいか。
- ・ 緊急通報、遠くに置く人もいる。使えない？使えるペンダントの使い方。
- ・ 不安に対峙（向き合う）方法。
- ・ 毎日、同時間に電話してもらおうと、普段の違いが判るのでは。

## ▶ ④グループ

- ・訪問して不安、困った。 デイサービス...・鍋の火つけっぱなし。(本人気づいた) ・独居、送迎時いなかった。(黒岩でもあってバスで違う方に行った) ※不安要素大きい
  - ・かぎ掛かり入れない。家族、ケアマネへ電話→中で急変していたら ・協力員...・独居も多い。→ごはん支度や不安な時は誰かに言ってくる。
  - ・(立花) 今のところは皆自分でできている。 ・胸骨圧迫、A E Dの講習はしている。
  - ・黒岩...何かあれば産直へ!!「そこの家の人が倒れている」と連絡入り、救急対応した経験。
  - ・独居の人...緊急時の電話先、複数確認必要。1つだけだと繋がらないことも 更新もしないと情報古いまま
  - ・黒岩：買い物行っても帰り荷物持って帰れない。送ったり、配達希望あれば対応 すぐ119番、緑のチラシ、家に1枚見えるところにある。解りやすい。A E Dも、黒岩の産直に欲しいかも。
  - ・ケアマネ...家族より、ケアマネに「様子変」と電話。様子見に行く→いつも通りではある→少しぐったり→水飲むけどご飯×→かかりつけに来てもらう→主治医判断で救急→何日か後に亡くなる。※すぐ行けば良かったが、「明らかに」ではないと迷う
- ※家族にもよる(救急の判断)
- ※チェックシートのようなものがあれば。・いざとなると戸惑う。・急変～救急搬送までの時間も大事。
- ・急変時の勉強も、地区ごとに行えればなおよい。
  - ・日中何かあっても、家族いなければどうしようもない。ふれデイなどの集まる場で、身体に変化ないか見るようにしている。

## ▶ ⑤グループ

- ・災害時、普段鍵かけるように言っているのに、声をかけても聞こえなかったり...どうすればよい？
  - ・地域的に一人暮らし、農家も少ない、誰かの目があることの方多い。
  - ・他の部落から来た人、日中一人で不安そう。何かの時には直ぐセンターに避難してくれる。時々訪問している。近くに包括あるので相談してみよう。
  - ・訪問時に「大変だ」の時に相談受けている。相談者と医師や看護師に伝える情報を
  - ・困ったことがあれば、包括などに相談できる。
  - ・防災訓練もきちんとしている。参加率も良い。
  - ・一人で倒れていた。呼んでも出てこない。電気付かない。かぎ掛かり電話も出ない。後日に行ってみると倒れていた。見守り隊（一人暮らし訪問する）
- ※一人暮らしは要注意。体調不良なども話してくれていれば、一緒に草取りとかしていたのに。



## ▶ ⑥グループ

- ・ヘルパーさん...熱い時期水分取りたがらない、服着こむなど 日中独居声掛けするが...  
緊急時、同居家族になっているが連絡付かない。仕事→緊急の判断。意識あるとき救急車呼ぶ  
ヘルパー救急車と一緒に乗れない。ケアマネに連絡して相談。 民生委員に連絡したいが、仕事している  
ので、難しい。
- ・蘇生...胸骨圧迫して、A E D 6回した。突然倒れて、息吹き返した。救急隊員に電話しながらすごいこと言  
われたが、突然のことで、考える余裕なかった。
- ・救急隊員呼ぶと→自宅は住所解る？携帯から電話することがあるので、すぐ住所がわからないから。
- ・胸苦しい→少しの痛みは我慢する→判断できない。夜救急車→心筋梗塞だった。
- ・脳梗塞：めまいする→言われた妻は、自分もだから。でも横になっても良くなるらない。  
時間たっていないのに、救急車来る頃にはろれつ廻らない。嘔吐した。
- ・家族だと救急車呼ぶタイミングが遅くなる？迷惑になる。外傷ないとき痛みは見えないので、意識はある、  
話せる。他人だとすぐ呼べる？！
- ・一人暮らしの方、体調不良時、家族が遠方だと行政区長か民生委員に連絡来る。  
近所方も社協の見守りの方だったから、民生委員に連絡できたが...
- ・担当者会議、民生委員参加する方は良い関係。ヘルパーさん何区かわからないので、民生委員とヘルパーが  
会える機会があると助かる。

## ▶ ⑦グループ

- ・ ベッドから落ちていた。
- ・ ヘルパーの来る時間に出かけていていなかった。
- ・ 訪問時の時間にヘルパーが来ない。（食事ができなかったなど）昼食食べていなかった。
- ・ 時間になっても来ないとき、
- ・ 親しくないのに、うるさく声をかけるのは、相手にとってどうなのか心配...
- ・ 夜になり、電気がついているか確認。
- ・ あまり頼られてもどこまでやっていいか
- ・ 一人での訪問は不安（男性職員との訪問）
- ・ 見守りしてもらえるだけでも家族は安心。
- ・ 家族からの一言大事。

# 研修の様子



● この研修では、

- ①「訪問した際に、倒れていたら？」⇒何をやるべきか基本的なことを述べます。
- ②「救急車を呼ぶ判断は？」⇒一通り説明した後、急病者役と専門職役のペアを組んでもらって知識を体得して頂きます。
- ③最後に地域連携のお話をします。



3班

- ・1人での訪問不安
- ・自宅と自宅の様子を知り不安
- ・天候が荒い人→倒れたら→救急車

連絡先をメモ

- ・避難所(避難所)の管理が厳しく

6班

- ・救急車を呼ぶ判断

7班

- ・偏見(偏見)の解消→救急車の呼ぶ
- ・緊急時連絡先をメモ
- ・AED(救急車)の場所を把握

1班

- ・救急車を呼ぶ判断
- ・AED(救急車)の場所を把握

地域連携